2025年大阪・関西万博での「対話の海」

について

2025年大阪・関西万博での「対話の海」
2025年大阪・関西万博での「対話の海」

2025年大阪・関西万博では、ポルトガルの見どころがたくさんあります。ポルトガルと日本の魅力を発見し、文化的な結びつきを強め、ポルトガルと日本の歴史的なつながりを祝う機会となるでしょう。日本語で「海」を意味する名前を持つポルトガルのマスコットキャラクター「UMI」が、2つの国を結ぶ海の旅にご案内します。

海：青の対話

大阪・関西万博におけるポルトガル館のテーマは『海：青の対話』であり、何世紀にもわたりポルトガルと日本を結びつけてきた海への敬意を表しています。このテーマは、16世紀にポルトガルの航海者が日本に到達した時から現在に至るまで、交流と相互影響の歴史を祝うものです。

ポルトガル：五感を刺激する目的地

ポルトガルでは、遺産がその都市や記念碑を通じて何世紀にもわたる歴史を物語り、自然は山々から大西洋に面したビーチまで広がっています。ガストロノミー（食文化）は伝統と革新の両方を反映し、ワインは国の卓越性を際立たせています。これらすべての理由から、ポルトガルはウェルビーイングのための目的地であり、すべての体験が忘れられないものとなります。

日本で*『生きがい』*
は存在理由や日々のモチベーションを表しますが、ポルトガルでは遺産の価値向上、持続可能な発展、そして革新的な未来の形成にその概念が見いだされます。同様に、*『好奇心』（コキシン）*
はポルトガルと日本の両国に共通しています。探求と探検の精神は両国の歴史を形作り続けており、新たなつながりや学びを今なお奮い立たせています。ポルトガルのマスコットであるUMIは、この海へのつながりと永続的な知識への探求を表しています。

UMI

2013 ポルトガル観光局 無断転載・転用禁止
info@visitportugal.com

ポルトガルにおける日本をテーマにした旅程

ポルトガルで日本にインスパイアされた旅を楽しみ、両国の文化遺産が今も息づく場所を訪れてください。

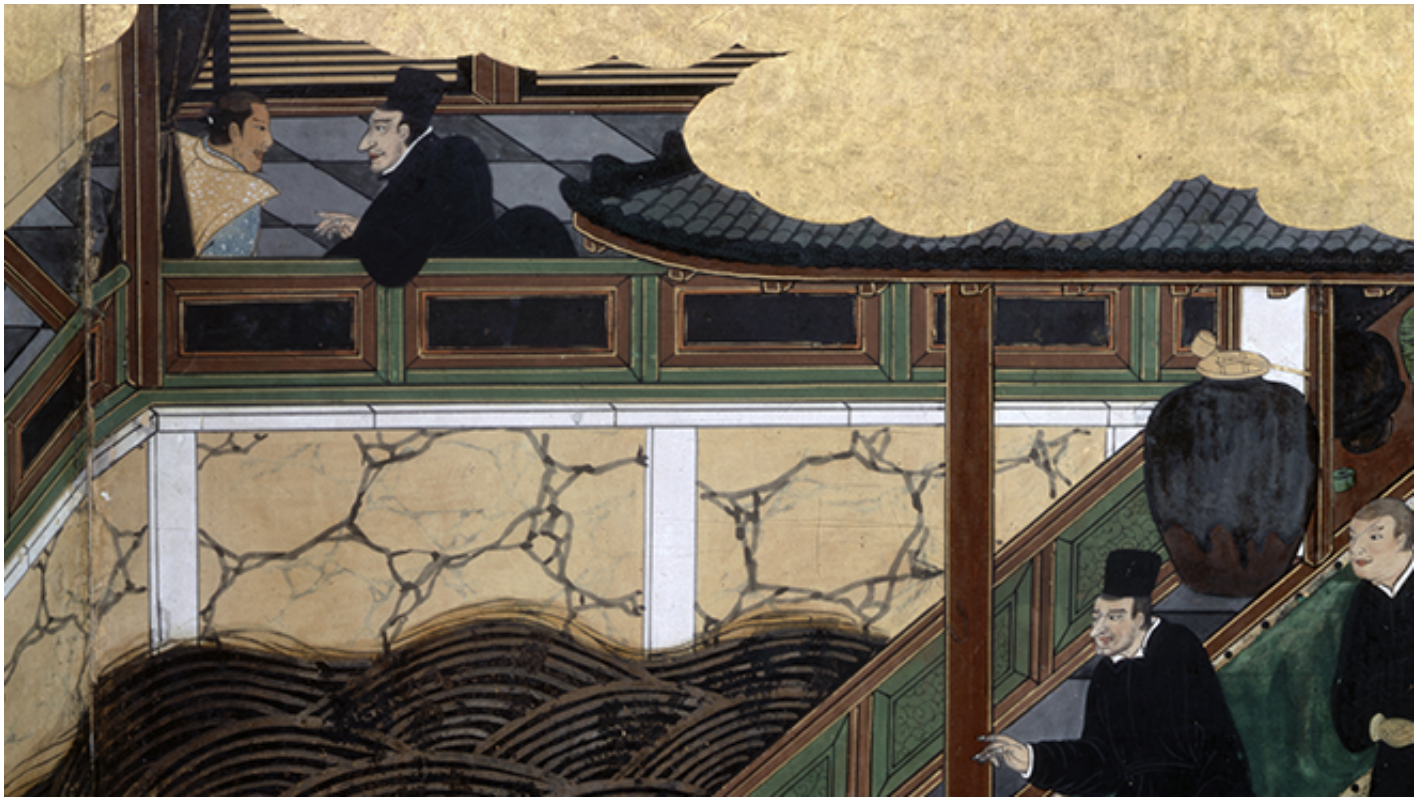
リスボンでは、**オリエント博物館**
がこの西洋の国と東洋との関係を理解するための参考となる場所となっています。南蛮屏風を鑑賞しましょう。これらはポルトガル人と日本人との最初の接触を描いた美術作品群の一部であり、両国間の商業的および文化的交流を反映した他の作品も含まれています。

ベレンでは、熱帯植物園内の**アジアパビリオン**
を訪れ、日本から中国に至るさまざまなアジア文化の芸術作品や装飾品を鑑賞することができます。ポルトガルにおけるアジアの影響
につ
いてもっ
と知りたい人にと
って、素晴らしい場所です。毎年、
ヴァスコ・ダ・ガマ公園では日本文化を祝うイベントである**ジャパンフェスティバル**
が開催されます。このイベントでは、武道、書道、折り紙、音楽パフォーマンス、*コスプレ*、そして日本料理が披露されます。

国立古美術館
の訪問はぜひともおすすめです。東洋美術の大規模なコレクションには、陶磁器、美術品、家具が含まれており、大航海時代におけるポルトガルと東洋の交流を証言しています。

バイロ・アルトでは、サン
・ロケ教会と博物館の間にあるラルゴ・トリンダーデ
・コエーリョに位置する**カサ・アジア**
に立ち寄ってください。この施設では、ポルトガルにおけるアジア文化の没入型の視点を提供しており、視覚や聴覚に障がいのある訪問者にも完全に対応しています。

必見の**カロステ・グルベンキアン財団**
には、有田焼の陶磁器や絵画を含む重要な日本美術コレクションがあり、日本美術の影響と洗練を際立たせています。



Biombo Namban - Museu Nacional de Arte Antiga ©José Pessoa

アレンテージョ地方では、南ポルトガルと日本のつながりを探索したい場合、エヴォラとヴィラ・ヴィソーザ公爵宮殿を訪れてくだ

さい。この2つの場所は、
16世紀にイエズス会によってキリスト教に改宗した
4人の日本人が訪れた地です。**エヴォラ大聖堂**
では、日本のパイプオルガンの壮大さに驚嘆してください。このオルガンは何世紀にもわたる歴史を持つ国の遺産であり、日本からヨーロッパに渡った最初の王子たちによって演奏されたものです。

ポルトガルの諸島を旅する際は、アゾレス諸島のポンタ
・デルガーダにある**ジョゼ・ド・カント植物園**
を訪れることを検討してみてください。そこでは、日本ブルーベリーやイチョウなどの日本の植物種を鑑賞でき、これらは何世紀にもわたる東西文化の植物交流を反映していま
す。一方、マデイラ島のフンシャルにある**モンテ・パレス熱帯庭園**
では、166枚のタイルで構成される『ポルトガル人の日本での冒険』というパネルを見ることができます。このパネルは、両国間の商業交流の物語を描いています。エキゾチックな植物、竹林、仏教の石像に囲まれてみてください。

Jardim Tropical Monte Palace ©Rumman Amin - Unsplash

ポルトガルで日本の精神をさらに体験したい場合は、日本文化を華やかに祝う最も象徴的な年次イベントに参加してみてください。これらのイベントは、あらゆる年代のファンを魅了します。漫画を中心としたイベントではありますが、**Amadora BD**
はマンガやアニメの存在によって際立ってい
ます。一方、マトジーニョスで開催される**イベラニメ**は、日本文化専用のイベントであり、*コスプレ*
コンテスト、ワークショップ、アニ
メや日本の伝統に関するテーマエリアが設けられています。*ポップ*カルチャーを紹介・特集する
コミックコン・ポルトガルでは、数あるアトラクションの中でもアニメやマンガを楽しむことができます。.

ご覧のとおり、ポルトガルと日本の関係の歴史は、さまざまな文化的および自然的な場所に反映されています。大阪のポルトガル館では、両国のつながりを探求し理解するための特別な機会を得ることができます。